

# 理研興業

## 風洞実験装置などの貸し出しを開始

### 気象データ配信システム販売も



風洞実験装置により地吹雪の状況を再現

# 模型を使って現地の状況を再現 道内有数の風洞実験装置

老舗の防雪柵メーカー理研興業(小樽、柴尾耕三社長)は、長年雪対策について研究し、数々の製品開発を実施。調査・実験等により、様々なデータを収集しているが、このたび、

老舗の防雪柵メーカー理研興業(小樽、柴尾耕三社長)は、長年雪対策について研究し、数々の製品開発を実施。調査・実験等により、様々なデータを収集しているが、このたび、

老舗の防雪柵メーカー理研興業(小樽、柴尾耕三社長)は、長年雪対策について研究し、数々の製品開発を実施。調査・実験等により、様々なデータを収集しているが、このたび、

うした実績を生かし風洞実験装置、移動気象観測車、定点気象観測車、関係し、風速分布ならびに、べき指数についても平成十六年に道立北方建築総合研究所、防災科学技術研究所雪氷防災研究センター、理研興業の三者により基本案がまとめられた。それに沿い、高い精度を有する風洞実験設備の改良を実施。その結果、より現実に近い吹き溜まりの再現が可能となった。実験には、活性白土、くるみ粉末、美瑛白土、酸化チタンなど様々な粉体を実験雪として使用。その移動形態、体積状況、表面の粗さなどあらゆる角度からデータの分析を行っている。

## 地元コンサルとの連携も

この風洞実験により、試験品による現地観測に比べ、コストの低減が図れるという。 同社では、「地元コンサル」とも連携し、住宅の着雪に対する研究や、国交省、道および各県をはじめとする自治体、ネクスコ、JR等の機関に、より正確な情報を提供し、安全で充実した雪対策が図れるよう、設備の貸し出しを視野に入れた営業活動を行っていきたい」と話している。

62-0033333まで。